

梅光学院幼稚園 学校評価報告書 <2024年度>

2025年1月31日

<2024年度 年間主題> ともにつむぎだす ～きぼうのなかで～

園の方針

<教育方針>

- ① ともだちいっぱい ～柔軟性のある世界観を養う～
- ② たのしさいっぱい ～遊びを中心にした保育～
- ③ イエスさまといっしょ～キリスト教信仰に基づく保育～

<中長期計画・重点目標>

1. 神の下の自己受容と他者受容（自らが神様と人々とに愛されている存在であること、また他者も同様であることを伝える。）
2. 自然から学ぶ（自然とのかかわりを通して、身心を鍛え、表現力と自然や人とかかわり合う力を養う。）
3. 異文化交流（豊かな表現や人とかかわりを通して、柔軟性のある世界観を養う。）
4. 園児の安定的確保
5. 地域連携
6. 各種学校との積極的交流
7. 安全な保育環境の提供
8. 保護者の満足度向上

<各クラス目標>

○年少目標：神様と先生に受け止められ、安心して園生活を送る。

基本的な生活習慣を知り、ひとりで出来た喜びを知る。

○年中目標：園生活に必要な生活習慣を知り、自分の力でしようとする気持ちをもつ。

いろいろな遊びを通して、教師や友だちと関わりをもとうとする。

○年長目標：友だちの良さや違いを認め合いながら、力を合わせて遊びを進める中で自分なりに考え、判断して行動しようとする。また、基本的な生活習慣や態度の意味を理解して、自主的に行動

する。

- 2歳児親子教室（こひつじグループ）：子どもも親も、神さまの安らぎのうちに安心して育ち合う。
親子で幼稚園に慣れ、安心と親しみを持つことで幼稚園生活に円滑に移行できるようにする。
友だちや先生と一緒に遊ぶことを楽しむ。
同年齢の小グループで、育ちや季節に沿った様々な活動を経験する。

- ふろむぜろ：地域の子育て支援として、小さな子どもを持つ親の安心できる居場所となり、悩みや喜びを共有する。

●教育課程・指導

評価項目	評価のまとめ
教育目標	<p>○「ともだちいっぱい たのしさいっぱい イエスさまといっしょ」を3本柱とする教育方針の理解が教職員・保護者共に定着し、園児にも発達段階に応じた活動を通して定着してきた。保育活動全般の基盤として実践されている。「キリスト教保育」と「遊びを通じた学び」の両面からの実践を深めることが出来た。</p> <p>○合同礼拝を定期的に行い、聖書のみ言葉からこの3本柱を自分の生活や、思いと関連させていくことができた。</p> <p>○毎月行う誕生会では、園長が子ども達一人ひとりに手を置き祈り、親子で神様に愛されて生まれた喜びを共有できた。</p> <p>○今後の課題として、柔軟性のある世界観を養うために、学院を通して留学生などと交わるなどの実際の体験を増やしていきたい。</p>
教育課程の編成・実施	<p>○各担当が園児の現状を把握して立てた年間計画・期案等による見通しを持って、園児の主体的活動の発展可能性に着目しながら、柔軟性のある保育を心がけた。</p> <p>○期案・週案やその記録についてデータベース化を推進し、情報の共有化・ペーパーレス化を推進した。</p> <p>○日々の保育の共有、役割分担などを職員会議で行い円滑な運営が出来た。毎週の職員の聖書の学び会においてキリスト教保育のねらいを確認した。</p> <p>○教師間の細やかな伝達、共有により一人ひとりの園児理解、保育のつながりや連続性のある発達を意識した教育課程を柔軟に編成していく事が出来た。</p> <p>○『幼稚園教育要領』に基づき、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視野に入れながら実践した。</p> <p>○運動会は年少と年中合同で、クリスマス祝会は全クラス合同で、ひかりのこ発表会は</p>

	<p>各クラス入れ替えで実施した。行事を子どもに合わせて無理なく準備したことによって、各年齢に則した成長が見られ、保護者の理解と協力を得て実施できた。</p> <p>○支援の必要な子どもに関しても、教師が情報をよく共有し療育機関と保護者と協力し、一人ひとりの子どもに指導計画を作成し、支援を行った。</p>
教育日数	<p>○教育日数は 39 週を満たしている。(年長 42 週・年少年中 43 週)</p> <p>○保育時間 通常保育 6 時間、午前育保 3 時間 平均 4 時間以上を満たしている。</p>
教育活動の成果	<p>○各クラスでは日々の礼拝を守り、聖書や讃美歌に親しんできた。毎月の聖句や讃美歌を定めて全員で唱えたり歌ったりすることを通して温かい心の育成に努めてきた。合同礼拝を通して神様の愛を喜び、日常生活の中で神様への願いと感謝する心を養ってきた。園児には主体的な祈りの態度や言葉が増えた。</p> <p>○年長・年中児を中心に自然体験や社会体験の場が持てるように努めた。みさかの森自然活動では五感を用いた豊かな体験ができるように配慮した。</p> <p>○異年齢と関わる活動を積極的に推進し、模倣したり、教え合ったりする遊びやお互いを尊重し合う活動の姿が見られた。</p> <p>○英語活動をプレイフル・ラーニングの重要な柱の一つとして位置づけた。各年級に応じた活動を通して、コミュニケーションを楽しみ、共感する力や実践的英語力が確実に伸びてきている。幼稚園のカリキュラムで培った実践的英語力と多様性の理解を続けて学べるプログラムが必要。保護者には、英語教育の講演会・英語クラス参観等を行い、幼児期に英語教育の基盤を築くことの大切さを伝えてきた。</p>
行事	<p>○運動会や「ひかりのこ発表会」等の各行事は、子どもたちの主体的な活動や遊び、取り組みから発展した活動とすることで、子どもたちにとって楽しくやりがいのある活動となるように工夫した。</p> <p>○2 学期の親子遠足は、リフレッシュパークを予定していたが、昨年度と同様雨天となった。昨年度は中止としたが、今年度は水族館に変更し、親子で思い出づくりをすることが出来た。</p> <p>○運動会は、年少と年中の合同、年長のみと、2 回に分けて実施した。今年度は英語のプログラムを加えたことで、日頃の英語活動の成果を保護者に披露することができた。また、年長児の竹馬の種目など年齢に応じた内容で子ども達の成長を感じられた。会場に来られなかった保護者に向けて会場の様子をリモート配信した。</p> <p>○クリスマス礼拝では、年長組がイエス・キリスト降誕の物語を賛美と演劇で表現し、参加した保護者にクリスマスの意味を伝えることができた。</p> <p>○「ひかりのこ発表会」もクラスごとの実施予定である。運動会と同様、会場の様子はリモート配信する。</p>

評価項目	評価のまとめ
幼小連携・進路	<p>○年長児クラスによる熊野小学校との幼小連携プログラムを 2 回行い、園児は小学校への期待感が高まった。また、幼保小の架け橋プログラムについて、担当教員間でカリキュラム制作に向けての話し合いがなされた。</p> <p>○年長組教師が、幾つかの小学校に参観、意見交換のため訪問。幼稚園生活の理解の共有、異校種等連携のよい機会となった。</p>
研究・研修	<p>○教職員の聖書の学びを月に一度の職員会議や週に一度の定例会議の中で実施した。</p> <p>○教職員の園内研修を 2 回実施した。そのうち 1 回はアレルギーやてんかんの発作時の対応について、1 回は幼児教育アドバイザーを招聘し、保育の様子を見学した後ワークショップ形式で実施した。</p> <p>○教師個人においても、担当する分野のオンライン研修に積極的に参加した。</p> <p>○園長、副園長、事務長、教員リーダーで認定こども園を 2 箇所見学し、中長期的なビジョンをもつための参考にした。</p>

●組織・運営

評価項目	評価のまとめ
経営・組織	<p>○園児数は、ここ 3 年定員を大幅に割れている。また今後更に進む少子化傾向、入園の低年齢化により、今年度から満三歳児の受け入れを開始した。早期の施設整備が課題である。</p> <p>○第二園舎に子ども用トイレを 2 基設置した。</p> <p>○教職員の安定した人材確保・育成を継続して行う。</p> <p>○預かり保育（18：30 まで）、登園・降園時のバス添乗、休憩時間の確保等も踏まえ、教職員の勤務の適正化と保育・教育のバランスを工夫していく必要がある。</p> <p>○今年度も変形労働制とした。急な勤務時間等の変更は難しいので、今後も計画的な運営が必要である。</p> <p>○社会のニーズに合わせ、認定こども園に移行していく準備が必要。その為、専門家によるアドバイス、学び会、研修を行いたい。</p>

●安全管理・保健管理

評価項目	評価のまとめ
安全管理	<p>○学校安全管理計画に基づき、学期末ごとに安全管理のチェックを実施、対応。</p> <p>○避難訓練は消防署と連携して、計画的に実施した。2学期は消防車の見学や、消火訓練も行った。</p> <p>○保護者との引き渡し訓練を5月15日に実施。その後、職員研修でアレルギーの子ども、てんかん発作の子どもの緊急時対応の訓練を実施した。</p> <p>○1学期、年長組のみ親子交通安全教室を実施した。3学期は年長組のみ就学に向けて交通安全の指導を実施する予定。</p> <p>○園バス等の事故防止のため、運行マニュアル等の見直しと教職員研修により、安全運行に努めていく。</p>
保健管理	<p>○学校保健計画に基づき健康診断等を実施した。</p> <p>○職員、園児に、感染者が出た場合、速やかに保護者にメール配信し注意を呼びかけた。</p> <p>○金原園医による健康診断、5歳児発達相談等の機会に、保護者からの相談・教師の気づき等を相談した。療育・訓練機関等と連携して保育に活かした。医師による診断はないが今後支援が必要となると予想される幼児が増えていることへの対応が課題である。</p> <p>○歯科検査の結果を家庭へ周知し、各家庭で治療・予防するよう呼びかけた。</p>

●情報提供

評価項目	評価のまとめ
アンケート結果 ホームページ	<p>○保護者対象アンケート 総合評価は概ね満足という結果であったが、個別に対応が必要な意見もあり、丁寧なフィードバックが今後も必要である。</p> <p>○ホームページを新たに刷新し、適時、新しい情報となるよう努めた。インスタグラムも活用し園の様子やイベントなど様々な情報を発信した。園児数確保の観点からもきめ細かい更新作業は今後も工夫が必要である。</p> <p>○保育ドキュメンテーションを活用し、保護者へ日常の子どもたちの様子、園での取り組みを配信。れんらくアプリから写真、動画、記事を見ることができるよう教職員にとって扱いやすく、閲覧回数は、かなり増えてきている。園だよりやお知らせ、日常の園での園児の様子等を配信していくことで、保護者にとっても身近なものとなっている。</p>

	一方で、ドキュメンテーションでの写真掲載の注意事項確認や、平等に掲載する、教師の負担にならないようにするなど課題もある。
特別支援教育	<p>○支援児はさらに対象が増えることは確実である。加配の教師の確保、クラス運営の側面からからも、願書受付後の面接で発達状況をよく確認し、受け入れについて教師間で情報共有し、園長の承認のもと決定した。</p> <p>○家庭や専門機関（こども発達センター・ぽけっと・こむぎ・各小児科医・児童相談所等）との連携や職員会議での情報共有に努めている。</p> <p>○特別支援を要する園児やその可能性のある園児、課題を抱える園児については、保護者と対面での情報交換を密に行った。今後もよりよい支援に繋ぎたい。</p>

●保護者・地域社会との連携

評価項目	評価のまとめ
保護者との連携	<p>○3月に外部講師を招いて、聖書から子育てについて学ぶ講演会を開催予定。</p> <p>○毎週日曜日に行われる梅光ルーキスチャーチで、聖書に関心のある保護者は自由に礼拝に参加する事ができる。</p> <p>○クラス懇談会はリモートで、個人懇談会は保護者の要望に応じて対面もしくはリモートで実施した。教師との面談を要望する保護者には、随時対応が出来た。</p> <p>○児童館のイベントへ参加した、権現山遠足・散歩、深坂の森自然体験等、子どもたちが豊かな自然に触れ合う活動ができた。</p> <p>○花の日礼拝に捧げた花を花束にして、園医さんや、施設に届けた。</p>
地域との連携	<p>○収穫感謝礼拝で捧げられた野菜や、果物を、園児からの手紙と一緒に、生野きらきら子ども食堂に届けた。</p> <p>○梅光ルーキスチャーチとの連携により、卒園児、保護者、地域との関わりを深めて行きたい。</p>

●子育て支援

評価項目	評価のまとめ
ふろむぜろ	○地域に貢献できる幼稚園の役割として、園舎を開放し、未就園児と親が安心して楽しく過ごすことのできる場を提供した。保護者の悩み相談、アドバイスや助言等を行った。教師が継続して部屋に滞在する事が難しい状況が課題。
こひつじグループ	○こひつじグループでは、未就園児の育成とともに保護者教育の一端を担う重要な

プ	<p>役割があることを踏まえて2グループに分けて活動した。(火、木クラス)</p> <p>入園に繋がる可能性も高いが、こども園や、保育園に入園するケースも増えてきた。また、満3歳児から入園できるようにしたため、今年度から満2歳児からこひつじグループで受け入れるようにした。今後こひつじグループの形も検討が必要。</p> <p>○ふろむぜろ・こひつじグループともに本園への就園に繋がる重要な機会であるため、ホームページ、インスタグラムなどで周知に努める。</p>
---	--

●預かり保育

評価項目	評価のまとめ
状況・人数・時間	<p>○今年度も18時30分までの預かり保育を継続した。この時間帯までの利用者は少ないが、今後の社会情勢やニーズを見据えて充実・工夫する必要がある。</p> <p>○年少児は、園生活に慣れるまでの3ヶ月は預かりをしないことを基本としつつ、集団生活経験者等については、個々に判断して受け入れを検討した。</p> <p>○就労者優先ではあるが、子育て支援の面からも幅広い受け入れを検討していきたい。</p>

●学院(大学・中学・高等学校)との連携

評価項目	評価のまとめ
大学との連携 子ども学部・他学部との連携 中学・高等学校との連携	<p>○月に2回開催される学校間連絡会議に、園長、副園長が参加し、学院の各学校種との情報共有を行なった。</p> <p>○大学の幼児保育専攻の学生がアルバイトとして、こひつじグループの補助をしてもらった。</p> <p>○大学や中高の教師と連携して多様な体験、学びができるよう、リモート交流会、リズム体操、音楽遊びなど企画した。</p> <p>○大学生の教育実習・フィールドワーク、卒業研究のアンケート調査等を積極的に受け入れた。</p> <p>○市民会館で行われた学院全体のクリスマス礼拝に年長組が出演し、讃美歌を歌った。年長児以外の保護者も数名参加した。</p> <p>○1, 2学期に、サービスラーニングの授業で高3の生徒5,6名が、落ち葉拾いなど、様々なボランティア活動をしてくれた。また、高校生の自主研究の協力を行った。</p>

●保育環境整備

評価項目	評価のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全 ・維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に施設・設備の安全点検を行い、園内で対応できることは営繕担当職員が応急的な対処をし、事故等の未然防止に努めた。 ○遊具倉庫のおもちゃの収納ラックを購入。子ども達の片付けがスムーズになる。 ○第二園舎に子ども用トイレを設置。 ○第一園舎、教材室の床が傾く、遊具室の壁の穴など、総務部と連絡を取り合い修理する。築 50 年になる園舎は老朽化が進んできている。
遊具・用具	<ul style="list-style-type: none"> ○感染対策として、遊具・用具等の消毒作業を念入りに行った。 ○年次的に古くなった園舎内の遊具等を入れ替える必要が出てきた。 ○補助金を使い、支援の必要なこどもたちに必要な教具を購入。保育環境や、教具についての研修を受け、保育の充実を図っていきたい。

●園児募集について

評価項目	評価のまとめ
募集定員	<ul style="list-style-type: none"> ○2024年9月1日より利用定員を、年少クラス：25名、年中クラス：25名、年長クラス：25名 合計75名に変更した。園児の安定した充足に向けた工夫が必要である。(満三歳児の受け入れ) ○ふろむぜろとこひつじグループについては、定員充足のための重要な活動であるためアイデアを生かした計画的な利用促進を図る。 ○新規募集時期等を工夫する等、改善が必要である。(オープンスクールの開催時期について検討が必要。) <p><園児数> (1月31日現在)</p> <p>2022年度：年少24名、年中29名、年長28名 合計81名</p> <p>2023年度：年少23名、年中25名、年長27名 合計75名</p> <p>2024年度現在：年少23名、年中24名、年長24名 合計71名</p> <p>2025年度予定：年少22名、年中19名、年長24名 合計65名予定</p>